

令和4年度第2回徳島市立考古資料館協議会抄録

- I 日 時 令和5年3月30日(木) 13:30～14:30
- II 場 所 徳島市立考古資料館 研修室
- III 出席者 協議会 中村会長・須藤副会長・菅原委員・板東委員・宮内委員・湯浅委員
教育委員会 伊東課長・岡田課長補佐・山口管理係長・堤主査・宮城主査・板東主事
考古資料館 北島館長・村田主任学芸員・大栗学芸員

IV 内 容

1 市民憲章唱和

2 あいさつ(伊東課長・中村会長)

3 議題

- (1) 令和4年度 徳島市立考古資料館主要事業概要報告(資料1)
- (2) 令和5年度 徳島市立考古資料館事業計画(案)(資料2)
- (3) その他

V 主なご意見

令和4年度主要事業概要報告及び令和5年度事業計画(案)に関して、各委員より様々なご意見をいただきました。主な内容は次のようなものでした。

(◇=委員のご意見 ◎=考古資料館・社会教育課の回答)

◇ 今年度の事業についてですが、協議会で出た様々な意見を取り入れ、多様な事業を行っている印象を受けました。

次年度の夏季企画展「古墳クエスト in 徳島」についてですが、今年度の特別企画展「横穴式石室の世界」とのつながりなども含めて、どのような内容になるのか教えてください。

◎ 特別企画展「横穴式石室の世界」では徳島の横穴式石室を持つ古墳をテーマにした展示を行ったのですが、来館者からは「うばのふところ古墳」「樋口古墳」などアクセスの難しい古墳の石室内の写真を見ることができてよかったとの意見をいただきました。今回の特別企画展では横穴式石室がテーマだったため、取り上げていない古墳も多く、次年度の夏季企画展では埋葬施設の形式にこだわらず、普段訪れることのできない古墳を含めた市内の古墳全般を紹介する展示を行いたいと考えています。

◇ では「横穴式石室の世界」で扱った古墳が「古墳クエスト in 徳島」でも再度紹介されるのでしょうか。

◎ はい。ただ「古墳クエスト in 徳島」は夏休みの児童を主な対象としているため、古墳とは何なのかといった基本的な知識、数世紀にわたる築造の中で古墳の外形、埋葬施設

の構造などがどのように変遷を経たのかなど、古墳に係る基礎的な知識を市内の古墳を例にして分かりやすく紹介できればと考えています。

◇ 連続性のある企画展ですので「横穴式石室の世界」で培った成果が生かされるよう、期待しています。

◎ はい。いただいたご意見を取り入れ、良い企画展に仕上げて行きたいと思います。

◇ 秋の特別企画展「阿波国分寺跡・国分尼寺跡を探る」に関する質問です。これまで資料館で行ってきた調査研究を基にした企画展とのことですが、阿波国分寺をテーマとした考古資料館講座は来年1月27日となっていて時期的な差がありますが、これは何か意図している事があってでしょうか。

◎ 資料館でボランティアを交えて行っている阿波国分寺跡の出土した瓦の再整理の中で、これまでに紹介されていない新しい資料がいくつも見つかっており、秋季特別企画展ではそれらを展示できるよう現在整理を進めています。

1月に行う考古資料館講座ではそれらも踏まえて2年間にわたるボランティアを交えた国分寺跡の資料調査研究の結果報告を行い、令和5年度の館報には調査研究成果をまとめたものを載せる予定です。

◇ ある意味途中経過が目立った成果を特別企画展で紹介し、全体の成果報告を年度末に行うということでしょうか。

◎ はい。そうなります。

◇ そうであるなら講座などのタイトルにそういった経緯が分かるような工夫をされたほうが良いように思います。

◎ ご意見ありがとうございます。館内で検討したいと思います。

◇ 質問が2件ありまして、一つは入館者数についてですが、昨年博物館法が改正され、またコロナ自粛も緩和されることになりましたので、今後の事業活動の目標を立てるに当たり、入館者数の推移が大まかな指標となると思われれます。そこで今年度の入館者数とコロナ前の令和元年、コロナ禍中の令和3年と比べ、どのように推移しているか教えてください。

もう一つは来年度末発刊予定の常設展示図録についてですが、どのくらいのページ数のものか、販売するのか、販売するのであれば価格などはどのくらいを考えているのか教えてください。

◎ 入館者数の推移からお答えします。令和元年度は開館日数が300日、入館者数が12,400人となり、令和2～3年度はコロナ禍中のため行動制限があり、開館日数は270～280日程度、入館者数は約7,300～7,350人、コロナ前と比べ60%程度となっています。令和4

年度はコロナによる休館はありませんでしたが行動制限は残っていましたが2月末計9,040人となっています。最終は9,800人ほどを見込んでおります。

- ◎ 常設展示図録についてですが、カラー刷りで40ページ、1,000部ほどの印刷数を考えています。図録の頒布については市内小中学校等には無料頒布を行いますが、一般の方にも有償頒布を予定しており、価格帯は現在印刷費高騰のため確約はできないのですが、800円から1,000円を考えています。
- ◇ 常設展示図録についてさらにお聞きしますが、どのような層を主たる対象に据えて構成しているのでしょうか。
- ◎ 基本的には小中学生でも読みこなせる内容とし、各章に小コラム的な項を設け、そこではより専門的な解説を行う形での構成を考えています。
- ◇ 学校との連携事業の小学校向けのバス助成についてですが、今はコロナで利用が少ないと思いますが、コロナ前にはどの程度利用されていましたか。予算があると思うので予算以上の利用はないと思いますが、利用率等が分かるのであれば教えてください。
- ◎ 予算は150,000円です。利用に関してはこの10年で150,000円を超えたことはありません。
- ◇ 以前出席した他施設の会議で学校関係者に博物館施設への来館を促したところ、交通費助成についての言及がありましたので、お聞きしました。他施設では予算が足りないほどの利用があったので、予算が足りているのであれば、もう少しアピールする必要があるのではないのでしょうか。需要はきっとあると思います。
- ◇ これまでは小学校としてもコロナ対策で活動が制限されていましたが、コロナが収まりつつある今後、制度の周知が進めばバス助成利用を希望する小学校は増えると思います。また魅力的な体験講座、イベント等もたくさん企画されていますので、それらも併せてアピールしていただければ、より来館する子どもたちも増えると思います。
- ◇ 博物館法が改正され、その関連で補助メニューが出てくることが予想されます。未確定な点も多いのですが、それなりに期待できる内容にはなりそうなので、教育委員会との協議のうえでそういった制度の利用も考えてみてはいかがでしょうか。